

2020 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和2年3月2日

三郷市長 木津 雅晟

提案全体のタイトル	本でつなぐみんなの意識が変わるまちみさとプロジェクト
提案者	三郷市
担当者・連絡先	

# 1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

## 1.1 将来ビジョン

### （1）地域の実態

#### （地域特性）

三郷市は、古くは天領として早場米を江戸に供給する田園地帯であったが、現在では、その風情を残しながら、鉄道 2 路線、高速道路 3 路線を有する良好な交通環境を備えた首都近郊都市として発展している。面積は 30.22 km<sup>2</sup>で、埼玉県 の東南端に位置し、都心から最近地点 15 km、最遠地点で 24 kmにあり、地形は平坦でほとんど高低がなく、北より南に向かってわずかに低い。西に中川、東に江戸川、南に小合溜井と水に囲まれた土地である。



#### 【人口動態】

人口は、142,484 人(令和2年2月現在)で、平成 7(1995)年から平成 17(2005)年までは緩やかな人口減少傾向であったが、その後、鉄道の開通などを背景に、人口は増加傾向となっており、特に平成 27(2015)年以降は市中央エリアを中心に、若い世代の流入が続き、人口増加の伸びが大きくなっている。世帯数は、継続的に増加傾向となっており、年齢別では、年少人口が高齢者人口を上回っていたが、平成 18 年に高齢者人口が年少人口を上回っている。近年では、65 歳から 74 歳までの前期高齢者人口に比して、75 歳以降の後期高齢者人口が増加している。

#### 【産業構造】

市内は豊かな水と緑、また都心へ利便性などから近郊農業が盛んであり、中でも小松菜は県内でもトップクラスの収穫量を誇る。また、市内産業としては、製造業の割合が高

く、次いで、卸売業・小売業が続く。平成 27 年国勢調査における就業人口は 67,102 人で、総人口に占める割合は約 49%となっている。産業別就業者数の構成割合は、平成 27 年において、第 1 次産業 1.1%、第 2 次産業 25.6%、第 3 次産業 66.0%と、第 3 次産業が 7 割近くを占めている。

#### 【地域資源】

江戸川や中川などの河川空間の他、県営みさと公園、早稲田公園などの水や緑を身近に感じることができる環境がある。また、JR 新三郷駅エリアには、ららぽーと新三郷、コストコ、イケアなどの商業施設が並ぶ。鉄道は、JR 武蔵野線、つくばエクスプレスの 2 路線、高速道路では、常磐自動車道及び首都高速道路足立・三郷線、東京外環自動車道を結ぶ三郷ジャンクションがあり、交通の結節点となっている。

また、三郷市では、平成 25 年に市議会の議決のもと、「日本一の読書のまち宣言」を行っており、作家の柳田邦男氏を応援団長に委嘱するとともに、「日本一の読書のまち推進課」を中心に、絵や文で本の紹介を行う家読ゆうびんコンクールや子ども司書の認定などの様々な取組みを通じて、市民一丸となり、「日本一の読書のまち」を推進している。

自然環境や交通利便性、ショッピングなどの生活利便性があるほか、日本一の読書のまちとして、文化の薫りを醸成する取組みは、大きな地域資源と言える。



#### (今後取り組む課題)

##### 【国際感覚と郷土愛の育成】

東京オリンピック・パラリンピックのギリシャ共和国のホストタウン登録を機に、三郷市はギリシャ共和国との交流を積み重ねてきている。また、インバウンドによる外国人観光客のほか、市内の外国人登録数も増加している中、まちづくりにおいても国際的な感覚が求められている。

国際感覚においては、人種や文化など、多様性に触れる機会でもあり、SDGs の推進にあたっては、このような認識を併せ持つ必要がある。

また、三郷市では、高校は三校あるものの、大学はなく、市内の子どもたちは進学や就職を機に都内や近隣へ転出していく傾向があるため、結婚などを機に U ターンによる定住促進を図りたい。そのためには、子どもたちに、国際感覚が身につく取り組みや郷土愛を育む取り組みによって、心の豊かさを育み、学べる質の高いまちと認識してもらえる環境構

築が必要である。

#### 【地域産業の振興】

地域産業においては、目玉となる観光や小松菜以外の特化した農産物など、強い地域基盤はなく、製造業、卸売・小売業が盛んであるものの、そのほとんどが中小企業であり、これらが地域を支えている中、産業における賃金水準は、県内レベルで比較すると低いいため、都内へ就職、働きに出る人が多い。そのため、地域産業の発展に向けては、地域での新たなイノベーションの創出や活動フィールドの開拓などが必要である。

#### 【健康寿命の延伸】

地域の持続可能な社会を維持していくためには、その地域に住む人の健康や元気は必要不可欠であり、少子高齢社会においては、特に健康におけるまちづくりの推進は求められるところである。三郷市においても、人口の約 10%を占めるみさと団地エリアをはじめ、地域によっては高齢化が進んでいるほか、埼玉県平均に比べて健康寿命が短い。健康増進を図るには、関心を持つことが重要であり、自ら行動を始める健康施策への取り組み強化を図る必要がある。

#### 【地域資源の活用】

三郷市は平坦で河川に囲まれた地域であり、移動しやすく、自然環境も残している。しかしながら、地域資源を上手く活用できておらず、これといった強みが出せず、観光面や産業面などへ影響を与えている。地域の特色を活かしていくためには、健康増進、郷土愛の醸成、環境教育など、工夫を凝らした取り組みの構築が必要のほか、地域資源を地勢のみに捉えず、これまで培ってきた地域の取り組みを組み合わせるなどして、相乗効果を出す活用の仕方が必要である。

### (2)2030 年のあるべき姿

#### 【2030 年のあるべき姿】

「人にも企業にも選ばれるまち」

三郷市の目指す持続可能なまちとは、地域の人々が「未来のために意識を変えられる、行動できる」きっかけを提供し、また、実際に変えること、行動することができるまちづくりを進めることである。人の意識を変える、人と人を結ぶ、人を動かす、そうしたきっかけを三郷市がこれまで取り組んできた読書や本をベースに発展させ、本×交流、本×産業振興、本×健康など、本×〇〇と組み合わせることにより、地域の課題解決に向けた動力としていきたい。意識変革や行動変容により動力があるまちは、新たな交流やイノベーションを創出し、「人にも企業にも選ばれるまち」として、成長を続けることができる将来のあるべき姿

である。

### 1 交流のまち

- ・東京オリンピック・パラリンピックを契機としたギリシャ共和国とのホストタウン交流に取り組むとともに、少子高齢化が進む中での多世代間の交流など、多くの交流を育むことで新たな価値観を生むまちとする。
- ・都市型ヘルスツーリズムの展開により、市内事業者を巻き込んだ健康を軸とした地域活性化事業に取り組み、市内外との交流の創出をする。
- ・学校教育の更なる充実とともに、市民総ぐるみで読書活動の推進に取り組むことで、本によるネットワークの強化を図り、人と人がつながる場面が充実する。

### 2 活力のまち



- ・豊かなまちを育むには、市民が健康にいつまでも暮らせるまちである必要があり、また市内がほぼ平坦な土地であることから、ウォーキングやサイクリングなど、日常の中にウェルネスの視点を加える取組みを推進し、健康的な行動ができるまちとする。
- ・地域産業の活性化を持続させていくため、商品への付加価値や従業員教育、コスト削減、企業間連携など、様々な課題がある中で、課題解決への学びや行動ができる必要があることから、学び行動へつながる場を提供するなど、地域産業の発展を支援する。

### 3 気づきのまち

- ・持続可能なまちへ向けては、子どもたちの国際感覚や多様性を育むとともに、郷土愛を醸成することで、SDGsによる地域振興への意欲に繋げたい。
- ・地域全体で持続可能なまちを実現させるためには、事業者に向けてのSDGsの理解の普及と、企業価値や製品・商品価値の向上による産業の発展が必要なため、啓発やサポートの充実を図る。
- ・環境配慮への気づきは、スマート自治体として、行政からスタートし、市民にとっても行政にとっても効率的で環境に配慮した行政運営を意識しながら進めることで、限りある資源を浪費することのないまちを実現する。
- ・様々な交流は、人に影響を与え、刺激を与え、仕事やプライベート問わず、多くの気づきを与える。地域の様々な場所、分野で、活力ある交流が展開されていくことで、意識が変わる、気づけるまちの実現を図る。




(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8, 3 8, 5 8, 9		
 9, 2 9, b		

三郷市は、市内産業は中小零細企業などの製造業が盛んであり、発展しているものの、県レベルでは賃金が低い傾向がある。また、農業は、都心から近い近郊農業であるが、後継者不足やブランド力も弱い状況がある。観光面も大きな柱がなく、地域の資源を活かしきれていない。このため、将来目指すあるべき姿に向けては、創造性やイノベーション、付加価値の創出などへの支援から、雇用の創出や起業の支援などにつなげ、地域経済の発展のための取組みを推進していく。ターゲットとしては、8, 3、8, 5、8, 9、9, 2、9,bを設定する。




(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 3, 4 3, 7 4, 4 4, 7 		
 17, 17		

今後、将来のまちの姿としては、「日本一の読書のまち」の取組みの積み重ねから、学校教育での読書活動のほか、子どもたちへは、本に係る体験型の交流を含めた取組みを

充実させるとともに、市民総ぐるみでの取組みや国際的な交流、多世代間での交流、または健康、環境などの分野による取組みなど、立体的な取組みが求められる。三郷市として、地域の一番の資源である市民の健康を守りつつ、多方面で活躍できる子どもを育むために、多方面での交流を促進する場を設けて、学び気づけるまちとしていく。ターゲットとしては、健康面での3, 4, 3, 7、教育面で4, 4, 4, 7、交流面として17, 17を設定する。



**(環境)**

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 11, 6  13, 3		
 14, 1		

三郷市は、低く河川に挟まれている土地であるため、台風や大雨などの気候関連の災害などに特に注意を要する必要がある反面、自然環境を身近に感じることができるエリアでもある。そのため、地域の環境について、理解を深めることは重要なことであると同時に関心が高い。日常生活が環境に与える影響、身近な生物など、環境教育を充実させていくこと、また、行政がスマート自治体を推進し、削減できるエネルギーやコストなどの意識をもった取組みを進めることで、地域全体で、環境配慮型の気付ける市民を増加させていく。ターゲットとしては、11, 6、13, 2、13, 3、14, 1を設定する。




## 1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

※SDGs未来都市選定後の3年間(2020～2022 年度)に実施する取組を記載すること。

(1)自治体SDGsの推進に資する取組	
① 国際感覚を身に着ける教育の推進	
ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)
 4, 7  17, 17	
<p>将来的に世界で活躍できる世界に意識を向けた子どもたちを育むとともに、持続可能な地域づくりを担う若者の創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシャ共和国との交流 東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンであるギリシャ共和国と継続的に交流を深め、事前キャンプ誘致活動の中で交流が生まれたペリステリ市の中学校と市内中学校による生徒の交流を加速させると同時に、三郷市のことを相手に伝えるために、地域の理解を深める。</li> <li>・本を通じた国際文化の探求 海外の本や絵本などを活用し、本が書かれた歴史的な背景や隠れた意味などを市内小中学生自ら調べ学ぶことにより、国際的な視点を養う。</li> <li>・本を身近にする仕組みの構築 市内の本の配送や啓発を兼ねて、ラッピングカーで回る、店舗等の協力により本を設置するなど、本に触れる機会を身近に作り、本に対する親しみを育む。</li> <li>・文化の薫り高いまちの推進 日本大学文理学部などの大学と連携し、大学生による文学講座などの機会を設定し、知的な好奇心や感性を育みながら、地域の知的文化を醸成する。</li> <li>・多様性を尊重する意識醸成 世界についての学びを通じて、ジェンダーについての知識とその尊重についても同時に学べるような取組みとしていく。</li> </ul>	



## ② 健康で活気あるまちづくりの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 3, 4  8, 9  17, 17		

持続可能なまちを目指すため、市民の健康増進と地域のにぎわいの創出に向けて取り組み、多方面への波及効果を図る。

### ・健康交流の拠点づくり

三郷市の東側を流れる江戸川の緊急用船着き場エリアを活用し、都市型ヘルスツーリズムの拠点づくりを進めていくことで、健康のスポットとして確立させるとともに、拠点化とすることで、人が集まる交流の場としての整備に取り組む。

### ・地形を活かした健康意識向上促進

市内はほぼ平坦なことから、ウォーキングやサイクリングに適しており、健康への意識付けとして、歩きやすい、乗りやすいをPRするとともに、意識へ働きかける取組みを推進する。






### ・多世代活性化の場づくり

三郷市の北部に位置するみさと団地は、昭和 50 年代に建てられ、高齢化が進むエリアであるが、その中で多世代交流複合施設の整備を進めており、多世代交流の活性化として、コミュニティの強化や文化活動の充実を図る。



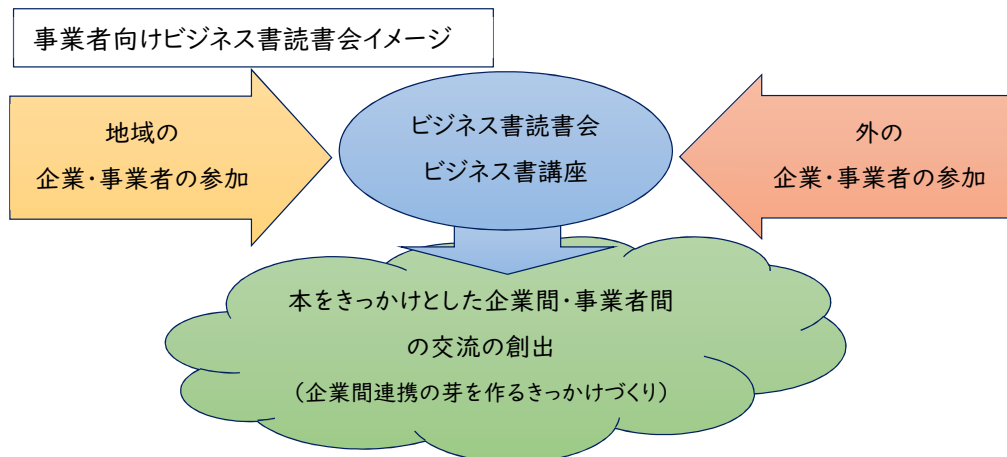
緊急用船着き場から見た江戸川(左)と河川敷のサイクリングロード(右)

### ③ 企業がつながる地域活性化





ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 8, 3  8, 5  9, 2  9, b  17, 17		

企業活動においても、協力や連携などのつながりは重要な財産となるため、地域経済の発展に向けたつながりの場を提供し、支援を進める。

- ・事業者向けビジネス書読書会  
ビジネス書の読書会を通じて、企業間同士のつながりを生むきっかけ作りを進める。
- ・SDGsの普及促進  
市内中小企業に向けたSDGsのセミナーやワークショップを開催し、SDGsの普及を進め、全市的に意識の浸透を図る。
- ・本に関わる起業支援  
近年では、雑貨と本、カフェと本など、本のみではない店舗が見られる。三郷市の特色として、本に関わる起業について事業者を通じて支援する。
- ・付加価値の創出  
製造業であれば、特許や実用新案などの知的財産による製品価値の向上、特産品であれば、商標や種苗などの設定によるブランド化を支援する。



#### ④ 環境配慮型の地域の構築

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 11, 6  13, 3  14, 1  17, 17		

環境への配慮を行動に移していくには、意識の変革が必要であり、そのためには学び、理解していくことが重要であることから、取組みを通じた意識への働きかけを実施していく。

##### ・環境教育の推進

近隣の越谷市・草加市・八潮市・吉川市・松伏町とともに構成する埼玉県東南部5市1町連絡調整会議において作成した環境・生物多様性をテーマにしたゲームなどを使用し、楽しみながら意識に働きかける取組みを実施し、創造的な学びの促進と環境配慮意識の醸成を図る。

##### ・スマート自治体の推進

EBPMによる分析型の政策立案によって、地域の分析に基づいた政策提言を行うほか、省エネ商品の購入や書類の電子化、効率的な業務運営によるエネルギーの削減、紙の削減、シェアサイクルなどのシェアリングエコノミーを推進していく。



いきものまんまるカードゲーム

## (2) 情報発信

### (域内向け)

既存の広報紙、市ホームページ、フェイスブック、ツイッターによる情報発信のほか、平成30年から開始している三郷市公式アプリ「ポケットみさと」において、投稿機能を活用した市民投稿型の仕組みを活用し、本を通じた新たな交流が生まれた際に投稿を行うことで、市民との双方向による情報共有を図り、相乗効果を生み出す。

### (域外向け（国内）)

市ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどの既存情報発信のほか、積極的なマスコミへの情報提供や連携している日本大学文理学部、跡見学園女子大学などの大学との取り組みを通じた情報発信のほか、近隣の市町で構成する埼玉県東南部5市1町連絡調整会議、三郷市への行政視察など、あらゆる場面を捉えて、三郷市のSDGsの取り組みを発信する。

### (海外向け)

交流のあるギリシャ共和国のペリステリ市、東京オリンピックの事前キャンプにおける関係性を構築したギリシャ共和国の陸上競技連盟から主に情報発信を行っていく。また、日本語とギリシャ語で情報発信を行っているサイト「GreeceJapan.com」の協力のもと、三郷市の取り組みをギリシャへ届ける。

さらに三郷市では、YouTubeによる動画配信を行っていることから、世界に向けてYouTubeによるSDGsの取り組みを配信し、本によるSDGsの取り組みを紹介し、広める。

### (3) 普及展開性(自治体 SDGs モデル事業の普及展開を含む)

#### (他の地域への普及展開性)

三郷市の SDGs の取組みは、本をキーとして、交流や活力の創出、環境への配慮など、地域の一人ひとりへ意識に訴えかけ、みんなの意識レベルを一段一段上げていくボトムアップ式の取組みである。この取組みの広がりにより、市民の意識のレベルを上げていけるものである。地域の中には、キーとなるものがあるはずであり、そのキーを活用して、取組みを展開させることで、意識レベルの高いまちづくりを行っていくことが可能であり、他地域においても、導入が容易であり、普及展開性が高いと言える。

#### (自治体SDGsモデル事業の普及展開策)

三郷市の自治体 SDGs モデル事業は、SDGs の目標達成は人々の意識変革から始めなければならないとの考えのもと、そのキーに本を活用して経済・社会・環境の 3 分野に取組むものである。それぞれの取組みから生まれる交流により構築されるステークホルダーを「見える化」することで、個々の事業や個々の分野の範囲を超えて、新たな側面を生み出すことが期待でき、また既存の事業等においても相乗効果を生み出すことが期待できる。多くの自治体において、地域の未来を考えた時に、本モデル事業は意識に働きかけ、行動していく人々を増やしていく事業であり、普及展開を図るべきものとする。

地域の中でキーとなる特色や強みを生かした施策の展開が可能であることから、三郷市の「日本一の読書のまち」を展開させた、新たなモデル事業の取組みは、多くの自治体との交流の機会を捉え、広く展開していく。

## 1.3 推進体制

### (1) 各種計画への反映

三郷市では、令和3年度を始期とする第5次三郷市総合計画が策定中であり、その他の個別計画にあっても、総合計画の策定から順次改訂を進める。今後策定する計画にはSDGsを位置づけ、その達成の実現に向けて、まちを挙げて取り組んでいく。

#### 1. 第5次三郷市総合計画

令和2年度で第4次総合計画が終了し、令和3年から令和12年までの10年間にわたり、第5次三郷市総合計画期間となる。第5次三郷市総合計画においては、各施策にSDGsのターゲットを位置づけ、関連する取組みを計画に反映させていく予定である。

#### 2. 三郷市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第5次三郷市総合計画の始期と併せて、2期目の総合戦略の策定を進めている。総合計画と同様に、SDGsを盛り込んだ内容とする予定である。

#### 3. 日本一の読書のまち三郷推進計画

日本一の読書のまちみさとを推進するため、令和3年度を始期として計画の改訂を予定している。この中で、本を通じたSDGsの推進を盛り込み、未来都市モデル事業の推進を図っていく。

#### 4. 三郷市環境基本計画

第5次三郷市総合計画と始期を同じにする計画策定を予定。持続的発展の可能な循環型社会の構築のため、SDGsの推進を計画に位置付けていく。

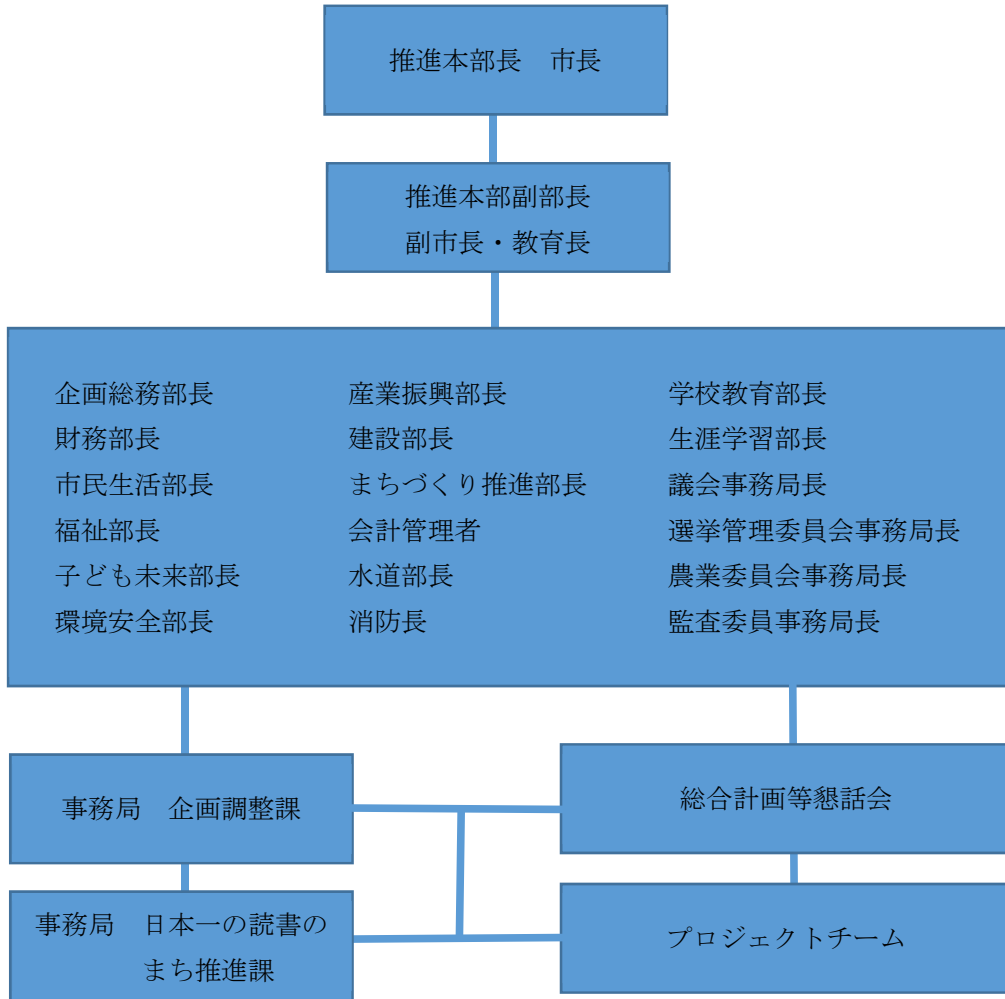
#### 5. その他の個別計画

三郷市都市マスタープラン、三郷市国土強靱化地域計画、三郷市健康増進・食育推進計画、三郷市公共施設等総合管理計画など、今後、策定や改訂予定のある、各種計画において、SDGsの視点を盛り込んでいくことで、強力な推進を図る。

### (2) 行政体内部の執行体制

本によるSDGs推進のまちづくりを図っていくため、全庁的に横断する各部署の連携が必要である。第5次三郷市総合計画において、SDGsを位置付けることにより、その実施状況や進捗状況の把握を行い、円滑なSDGs推進に取り組むとともに、検証を兼ねて見直し等を行いながら、確実な推進を図る。

【体制図】



・日本一の読書のまち SDGs推進本部

全庁的に取り組むため、全体の協議や情報共有を図るとともに、毎年の各部ごとの目標設定に SDGs の視点を入れるなど、全庁的な意識改革の場とする。

・総合計画等懇話会

市内団体、大学、県職員、市民などから構成し、総合計画や総合戦略などの取組みに対し、助言や検証等を行う。SDGs の推進についても、総合計画等と併せて、検証等を行っていく。

・日本一の読書のまち SDGsプロジェクトチーム

主な事業に関連する部署から選抜した担当により、事務レベルで事象を支える。

### (3)ステークホルダーとの連携

#### 1. 域内外の主体

・市民に対しては、三郷市自治基本条例や総合計画等に位置付ける、参加と協働の基本的な理念に基づき、SDGs の理念のもと、持続可能な地域づくりを目指し、行政と共に同じ方向を向くことが重要である。

三郷市の将来のあるべき姿を共有し、共に意識を変えていく機運の醸成と推進を図っていく。また、三郷市の SDGs の取組みに向けては、交流を通じた教育、地域活力、環境意識など、本で様々な分野をつないでいくことから、三郷市環境保全協会、公益社団法人三郷市文化振興公社、一般財団法人出版文化産業振興財団など、関連する団体や市民とも連携しながら事業展開を図る。

・企業等については、三郷市内産業は中小零細企業などの製造業が盛んであり、発展しているものの、県レベルでは賃金が低い傾向がある。また、農業は、都心から近い近郊農業であるが、後継者不足やブランド力も弱い状況がある。

このため、将来目指すあるべき姿に向けては、創造性やイノベーション、付加価値の創出などへの支援から、雇用の創出や起業の支援などにつなげることが必要であり、三郷市商工会や一般社団法人三郷青年会議所、一般社団法人三郷市観光協会、さいかつ農業協同組合などと連携して、地域経済の発展のための取組みを推進していく。

・その他の機関等については、三郷市教育委員会を始め、三郷高校、三郷北高校、三郷工業技術高校、協定のある獨協医科大学、日本大学文理学部、跡見学園女子大学、女子栄養大学などと各分野での SDGs 目標達成に向け、三郷市をフィールドに共同で事業を展開するなど、取組みを盛り立てていく。

#### 2. 国内の自治体

・近隣市町との連携として、三郷市は埼玉県東南部5市1町連絡調整会議の一員として、長年にわたり課題の共有と事業連携を実施している。更なる緊密な連携として、SDGsによる推進の共有を図る。

【構成市町】草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町

・友好都市との連携として、三郷市は長野県安曇市、奈良県三郷町との友好都市交流を図っている。奈良県三郷町は SDGs 未来都市であるため、交流の深化と SDGs の推進に取り組む。

#### 3. 海外の主体



・海外の連携として、ホストタウン交流から発展したギリシャ共和国のペリステリ市との国際交流を加速させ、文化や知識の幅を広げ、連携強化を図る。

#### (4) 自律的好循環の形成に向けた制度の構築等

三郷市の将来のあるべき姿に向けては、地域の人々の意識を変えていくこと、その訴えかけの仕組みを構築して持続可能なまちに変換していくことである。仕組みを構築するにあたっては、長年取り組んできた「日本一の読書のまち三郷」による読書活動の土台を活用し、地域に向けて新たな展開を図るものである。生活の中に溶け込んでいる本をキーとして、様々な分野において意識への訴えかけや行動へのきっかけの場を提供する。

自律的好循環の形成に向けた制度構築としては、本や読書によって意識を変える取り組みへの姿勢が重要なポイントであり、ステークホルダーとの連携により、進めた取り組みから生まれた交流を確実に「見える化」することがカギである。意識や行動の変革から、次の取り組みのステージへ促し、新たな交流や関係性につなげて、意欲ある取り組みに発展させていくことで、新たなイノベーションを創造していくことができる。このとき、国際的感覚や地域の活性化などをポイントにした SDGs の視点が自律的好循環の土台となり、その創造からまた新たな交流を創出し循環を形成する。

## 2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

### 2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

#### (1) 課題・目標設定と取組の概要

##### (自治体SDGsモデル事業名)

本でつなぐみんなの意識が変わるまちみさとプロジェクト

##### (課題・目標設定)

- ゴール3 ターゲット 3,3
- ゴール4 ターゲット 4,4、4,7
- ゴール8 ターゲット 8,3、8,5、8,9
- ゴール9 ターゲット 9,2、9,b
- ゴール11 ターゲット 11,6
- ゴール13 ターゲット 13,3
- ゴール14 ターゲット 14,1
- ゴール17 ターゲット 17,17



三郷市は都心への近く、河川による自然環境もあり、平成17年につくばエクスプレスが開通したことで、市の中央部は開発が続き、人口も伸びている。一方で、観光や農業を含む地域を支える産業基盤は強いとは言えず、製造業や卸売業・小売業の中小企業が地域を支えている。また、高等学校は市内に3校あるものの、大学はなく、市内の子どもたちは、進学や就職を機に都内や近隣エリアなど、他の地域へ流出している。このような状況は、将来的な人口減少を見据えたときに、流出した子どもたちは、産業基盤の弱く賃金水準の低い地域へは戻ることはなく、まちの活力は削がれ、衰退が予測される大きな課題である。

人に選ばれ、企業に選ばれる、魅力的なまちを目指すには、まちに交流や活力があり、何より地域の人々が育って良かった、住んで良かったと思ってもらえることが必要不可欠である。そのためには、地域みんなの意識が高く、将来に向けた持続可能な地域づくりへ意欲的である環境構築が重要である。


三郷市では、これまで築いてきた「日本一の読書のまち」の取組みを発展させ、本を意識づくりのキーとして、きっかけを作り、交流を通じて新たな価値観を創出していくことで、SDGsの目標達成に資すること、地域の課題解決に資することを目指す。

**(取組概要)※150文字**

本は人の意識を変えるスイッチにも、人と人を結ぶカギにも、人を動かすエンジンにもなる。本×交流、本×産業振興、本×健康など、本を組み合わせた立体的な取組みを展開していくことで、意識変革や行動変容を起こし、次の取組みのステージへ、新たな交流や関係性につなげて、新たなイノベーションを創造していく。

**(2)三側面の取組**

**① 経済面の取組**

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3	指標:ビジネス書の読書会参加者数	
	現在(2020年2月):	2022年:
 8, 5	0	250人
 9, 2	指標:企業向けSDGsセミナー等参加者数	
 9, b	現在(2020年2月):	2022年:
 17, 17	0	250人

**本から始める地域経済の活性化**

**①-1 本による企業交流支援事業**

市内の図書館をビジネス交流の場として設定し、ビジネス書の読書会やビジネス書の紹介を兼ねたビジネススキル講座を開催し、企業間同士のつながりを生むきっかけを作る。

**①-2 本とマッチング起業支援事業**

活字離れが進み、本の業界が縮小する中で、時代に合わせた本×〇〇など、まちに新しい発想の事業展開を推進するため、事業開始の相談や資金の補助などを支援内容として、本に関わる事業を始めたい人への支援をする。

**企業ブランドや商品価値の向上**

**①-3 SDGs 普及促進事業**

市内中小企業に向けたSDGsのセミナーやワークショップを開催し、SDGsの普及を進め、全市的に意識の浸透を図るとともに、SDGsに取り組むことで企業価値の向上を促進する。


**①-4 知的財産利活用支援事業**

製造業では、特許や実用新案、意匠による製品価値の向上、特産品では、商標や種苗の設定によるブランド化など、戦略的経営に向けた相談の場や学習の場を設定するほか、資格取得の補助をするなどの支援を行う。

**(事業費)**

3年間(2020～2022年)総額:13,750千円

**② 社会面の取組**

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 7 4, 7 8, 9 17, 17	指標:ギリシャ共和国との国際交流取組件数	
	現在(2020年2月): 15件	2022年: 35件
	指標:電子図書登録者数	
	現在(2020年1月): 1,280人	2022年: 2,000人

**本で培う意識の醸成**

**②-1 本によるギリシャ共和国交流事業**

交流のあるギリシャ共和国のペリステリ市の中学校と市内中学校による本の交換や文章の翻訳などを実施し、知の交流を深めることにより、国際感覚を育むとともに自分のまちを紹介するなど、地域の理解も深める。

**②-2 本を通じた国際文化探求事業**

海外の本や絵本などを活用し、本の作者の国、書かれた歴史的な背景や隠れた意味など、市内小中学生が自ら調べ学ぶことにより、国際的な視点を養う。また、日本大学文学部などの大学と連携し、調べた同様の本について、大学生の視点での文学講座を開催することで、さらなる知的好奇心や感性を育む。

**②-3 まちまるごと図書館推進事業**

意識への働きかけとして、本が身近にある環境構築を目指し、市内を走る本を乗せたラッピングカーや店舗や企業などと連携して、まちの至るところに本がある、借りられる、読める、司書がいるなどの仕組みに取り組むとともに、電子版の本普及にも取り組み、外に出られない、言語がわからない、見られないなどの多様な人々に対するアプローチを行っていく。

**本を活用した健康意識へのアプローチ**

**②-4 都市型ヘルスツーリズム拠点構築事業**

江戸川にある緊急用船着き場エリアを活用した拠点づくりを進め、健康拠点とするとともに、人の交流の場としての整備し、健康やツーリズムに関連した図書を設置することで、ツーリズムの参加者など拠点に集まる人々に対して、健康行動をさらに促進させる。







### ②-5 健康意識促進事業

ウォーキングやサイクリングの啓発、促進にあたり、シェアリグエコノミーとして、ビジネス交流の場とした図書館、環境教育を実施する図書館や駅などをシェアサイクルでつなぐ、ウォーキングコースを設定するなど、意識を促進させる取組みを推進する。

#### (事業費)

3年間(2020～2022年)総額:13,800千円

### ③ 環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 6  13, 3  14, 1  17, 17	指標:環境教育参加者数	
	現在(2020年2月): 0	2022年: 300人
 14  17	指標:どこでも読書スポット設定数	
	現在(2020年2月): 0	2022年: 20件

#### 図書館で進める環境教育

##### ③-1 環境教育推進事業

環境・生物多様性をテーマにしたゲームを活用するなど、子どもから大人まで楽しみながら図書館で取組みを実施し、ゲームよる気づきを本によって深掘りしていくことで、創造的な学びの促進と環境配慮意識の醸成を図る。

##### ③-2 どこでも読書スポット創出事業

まちまるごと図書館推進事業と連携し、どこでも本があるから、どこでも本が読めるへ、事業展開を図る。市内公園などにどこでも読書スポットを設定し、読書が出来る環境とするため、美化活動を行うとともに、美化活動を通じた環境配慮啓発を実施する。また、企業版ふるさと納税などを活用して美化活動やベンチ修繕などの環境整備を行う。

#### 環境配慮型の行政運営

### ③-3 スマート自治体推進事業

EBPMによる分析型の政策立案によって、地域の分析に基づいた政策提言を行うほか、省エネ商品の購入や書類の電子化、効率的な業務運営によるエネルギーの削減、紙の削減、シェアサイクルなどのシェアリングエコノミーの推進を図る。

#### (事業費)

3年間(2020～2022年)総額:32,800千円

### (3)三側面をつなぐ統合的取組

#### (3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

#### (統合的取組の事業名)

本でつなぐみさと未来プラットフォームの構築

#### (取組概要)※150文字

本を基軸とした様々な取組みから生まれた交流(ステークホルダーとの関係)を「見える化」し、見えた中で、更に新たな交流をコーディネートして、つないでいくことで、新たな価値を創出する交流を生み、持続可能なまちを構築する。

#### (事業費)

3年間(2020～2022年)総額:13,900千円

#### (統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

三側面の各施策において、本を基軸した事業を構成していることから、相互に結びつきがある。総合的取組として、本で結びつきのある取組みやその関係者など、あらゆるステークホルダーの「見える化」を行うことで、関係性の明確化や情報の共有ができるようになる。また、共有のみにとどまらず、各分野での相乗効果を期待すること、新たなつながりを発掘することも可能となり、三側面の取組みを推進し、拡大していくほど、そのつながりの幅が広がる仕組みとなる。交流を「見える化」することによって、過去の交流や個人に帰属した交流も無駄にせず、活かすことでSDGsの推進につながる。

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1) 経済⇄環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 企業向け SDGs セミナー等参加者数	
現在(2020年2月): 0人	2022年: 250人

本でつなぐみさと未来プラットフォームの構築により目指すのは、事業者も含めた地域全体での意識のボトムアップである。地域事業者の交流、SDGs 普及に伴い、環境面への意識醸成が図られるとともに、意識が生まれることによる環境面のビジネスチャンスが生まれ、プラットフォームによる交流のコーディネートによって、ビジネスを通じた新たな環境面へのアプローチを創出する。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 市内事業所従業員数	
現在(2020年2月): 52,919人	2022年: 55,000人

スマート自治体の推進をはじめとする、環境配慮型の生活スタイルへの変換、また、環境面の取組みの中で、構築されたステークホルダーにより、さらに新たな交流を築き、生まれた交流の中で企業自身が環境配慮型の意識向上がつながり、環境配慮型の運営を行うことで、企業価値の向上につながり、雇用創出等の企業の発展にもつながる。

(3-2-2) 経済⇄社会

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 都市型ヘルスツーリズム参加者数	
現在(2020年2月): 0人	2022年: 100人

本でつなぐみさと未来プラットフォームの構築によるビジネスの交流の広がりから、健康

に関する新たな交流、国際的な新たな交流など、地域を活性化させる取組みと連携ができ、都市型ヘルスツーリズムの展開やビジネスからの国際的なつながりの題材とした、学習の機会となり得るため、様々な派生展開を創出できる。

**(社会→経済)**

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: ビジネス書の読書会参加者数	
現在(2020年2月): 0人	2022年: 250人

国際感覚の醸成や健康を含む市民の活力の創出は、地域産業にとっても、国際感覚の浸透や健康寿命が延びることでの雇用創出につながる。また、国際交流では、地域の特色や産業などに注目が集まる。世界的な視点でも日本は高い技術力を持ち、製品の品質も良いことから、国際交流の発展の先にビジネスチャンスの期待がある。

**(3-2-3) 社会⇄環境**

**(社会→環境)**

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 環境教育参加者数	
現在(2020年2月): 0人	2022年: 300人

本で培う国際意識の醸成から、子どもたちは世界への知識を広め、地球規模の視点により、環境面の認識にもつながる。こうした関心や興味の流れを捉え、環境教育の充実として、ゲームを入口とした充実を図り、みさと未来プラットフォームから環境面における、新たなアプローチを探るなど、意識の変革に向けた一歩につなげる。

**(環境→社会)**

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 電子図書登録者数	
現在(2020年1月): 1,280人	2022年: 2,000人

環境教育の推進は、世界や地球規模での視点による意識醸成を図り、国際感覚の育成



や本による知識の深掘りなどへつながる。また、環境配慮型の行政運営により、ウォーキングやサイクリングの推進は健康増進につながり、また、オーディオブックなどの電子書籍の推進においては、障がい者へ向けた多様性の認識、外国語の認識などへのきっかけとなる期待もできる。行政から変革していくことで、きっかけの機会を多く創出する。

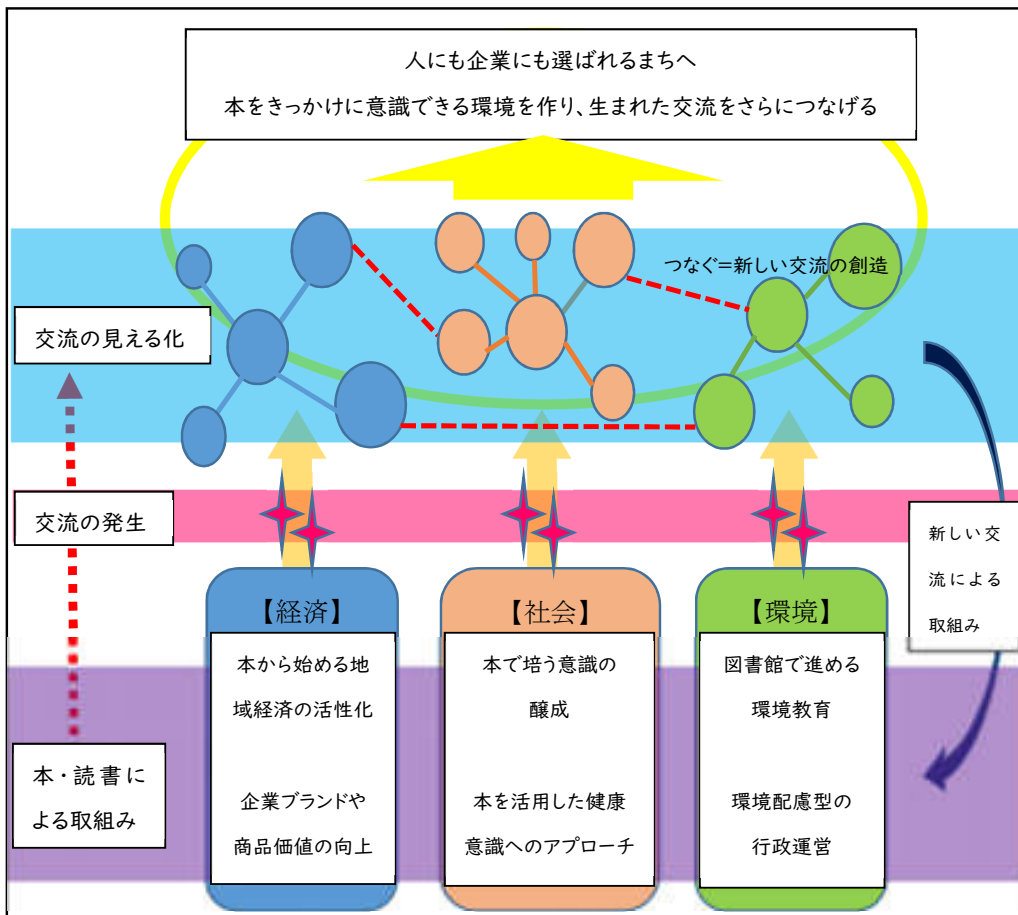
#### (4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
三郷市教育委員会	学校教育を通じた交流や国際文化等の事業実施
ギリシャ共和国ペリステリ市	交流する主体として協力
(公社)三郷市文化振興公社	交流の場、環境教育の場として協力
(株)日比谷花壇	交流の場、環境教育の場として協力
国際交流協会	交流の場、国際文化探求などへの協力
ヘルスツーリズム研究所	健康意識促進や都市型ヘルスツーリズムの支援
(株)JTB	健康意識促進や都市型ヘルスツーリズムの支援
(一社)三郷市観光協会	健康意識促進や都市型ヘルスツーリズムの支援
日本大学文理学部	国際文化探求、健康意識促進などへの協力
跡見学園女子大学	国際文化探求、健康意識促進などへの協力
三郷市商工会	企業交流、SDGs普及、知的財産活用などへの協力
(一社)三郷青年会議所	企業交流、SDGs普及、知的財産活用などへの協力
経営標準化機構(株)	企業交流、SDGs普及、知的財産活用などへの支援
三井住友海上火災保険(株)	企業交流、SDGs普及、知的財産活用などへの支援
大日本印刷(株)	スマート自治体、まちまるごと図書館推進などへの支援
丸善雄松堂(株)	スマート自治体、まちまるごと図書館推進などへの支援
埼玉県東南部5市1町連絡調整会議	環境教育の協力
三郷市環境保全協会	環境教育の協力
三郷の川をきれいにする会	環境教育の協力
日本児童図書出版協会	まちまるごと図書館推進、本による交流、国際文化探求などへの協力
(一財)出版文化産業振興財団(JPIC)	まちまるごと図書館、本による交流(企業交流含む)、国際文化探求、環境教育などへの協力
日本出版販売(株)	まちまるごと図書館、本による交流(企業交流含む)、国際文化探求、環境教育などへの協力

## (5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

### (事業スキーム)

本や読書によって意識を変える取組みへの姿勢が重要なポイントであり、三郷市の推進体制やステークホルダーとの連携により、確実に交流を「見える化」していくことがカギとなる。経済・社会・環境の三側面における取組みから生まれた新たな交流や関係性をエビデンスを基にコーディネートし、新たなイノベーションを創造していくことで、未来を切り開き、地域にとっての好循環につながる。



### (将来的な自走に向けた取組)

将来的な自走に向けては、事業により構築される様々なステークホルダーを「見える化」していくことから、事業で培った情報やつながりをプラットフォームとして、連携するステークホルダーとともに、持続発展的に事業展開を図っていくことが見込める。

## (6)資金スキーム

### (総事業費)

3年間(2020～2022年)総額:74,250千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ統合的取組	計
2020年度	3,350	4,400	11,000	9,900	28,650
2021年度	5,200	4,700	10,900	20,00	22,800
2022年度	5,200	4,700	10,900	20,00	22,800
計	13,750	13,800	32,800	13,900	74,250

### (活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金 (内閣府)	2020-2022	58,250	<ul style="list-style-type: none"><li>・②-3 都市型ヘルスツーリズム拠点構築の構想案策定に係る部分について、活用。(事業決定済)</li><li>・①-1 本による企業交流支援事業</li><li>・①-2 本とマッチング起業支援事業</li><li>・①-4 知的財産利活用支援事業</li><li>・②-2 本を通じた国際文化探求事業</li><li>・②-3 まちまるごと図書館推進事業</li><li>・②-5 健康意識促進事業</li><li>・③-1 環境教育推進事業</li><li>・③-2 どこでも読書スポット創出事業</li><li>・③-3 スマート自治体推進事業</li></ul> に係る部分について、活用予定。(申請未)

### (民間投資等)

取組みに共感した企業から寄付を募る「企業版ふるさと納税」を活用するほか、本や読書に関わる民間企業等と積極的に関わり、地域における民間投資を促進していく。

(7)スケジュール

	取組名	2020 年度	2021 年度	2022 年度
統合	本でつなぐみさと未来プラットフォームの構築	準備 計画・プラットフォーム構築 (～3月)	コーディネート継続実施	
経済	・本による企業交流支援事業	計画・交流実施 (～3月)	継続実施	
	・本とマッチング起業支援事業	計画・支援実施 (～3月)	継続実施	
	・SDGs 普及促進事業	計画・セミナー実施 (～3月)	セミナー実施	セミナー実施
	・知的財産利活用支援事業	計画・支援実施 (～3月)	継続実施	
社会	・本によるギリシャ共和国交流事業	計画・交流実施 (～3月)	交流実施	交流実施
	・本を通じた国際文化探求事業	計画・取組み実施 (～3月)	継続実施	

	・まちまるごと図書館推進事業	計画・様々な取組みの展開 (～3月)	継続実施	
	・都市型ヘルスツーリズム拠点構築事業	構想(～3月)	計画	実施
	・健康意識促進事業	計画(～3月)	実施	実施
環境	・環境教育推進事業	計画・取組み実施 (～3月)	継続実施	
	・どこでも読書スポット創出事業	計画・スポット選定・実施 (～3月)	継続実施	
	・スマート自治体推進事業	構想・検討・実施 (～3月)	継続実施	

2020年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル:本でつなぐみんなの意識が変わるまちみさとプロジェクト 提案者名:埼玉県三郷市

全体計画の概要:本をキーとして、本×交流、本×産業振興、本×健康など、本を組み合わせた取組みを展開し、事業を通じた様々なつながりを構築する。本による気づきや交流による気づきの中で、地域の人々が未来のために意識を変えられる、行動できる、そんな環境を構築し、交流から新たな交流を創出できる持続可能な地域を目指す。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の子どもたちは進学や就職を機に都内や近隣へ転出していく傾向がある。</li> <li>地域産業においては、強い基盤はなく、中小企業が地域を支えている。</li> <li>埼玉県平均に比べて健康寿命が短く、地域資源を活かしきれていない。</li> </ul>	<p>「人にも企業にも選ばれるまち」 意識変革や行動変容により動力があるまちは、成長を続けることができる。</p>
2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット		
 <p>経済 8,3/8,5/8,9/9,2/9,b      社会 3,4/3.7/4,4/4,7/17,17      環境 11,6/13,3/14,1</p>		<p>【経済】創造性やイノベーション、付加価値の創出へ 【社会】様々な交流の場により学び気付けるまちへ 【環境】環境配慮型の市民の増加へ</p>

2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
	<ol style="list-style-type: none"> <li>国際感覚を身に着ける教育の推進 海外交流などを通じ、子どもたちの視野を広める。</li> <li>健康で活気あるまちづくりの推進 市民の健康と地域のにぎわいの創出を図る。</li> <li>企業がつながる地域活性化 地域経済の発展に向けた交流の場の設置を進める。</li> <li>環境配慮型の地域の構築 環境配慮への意識の働きかけを進める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三郷市公式アプリ「ポケットみさと」において、投稿機能を活用した市民投稿型の仕組みを活用し、市民との双方向による情報共有を図る。</li> <li>マスコミへの情報提供や連携している大学などとの取組みを通じた情報発信のほか、あらゆる場面を捉えて発信する。</li> <li>・YouTubeや「Greece-Japan.com」に本によるSDGsの取組みを紹介し、広める。</li> </ul>	<p>本をキーとして、交流や活力の創出、環境への配慮など、地域の一人ひとりへ意識に訴えかけ、みんなの意識レベルを一段一段上げていくボトムアップ式の取組みである。地域の中には、キーとなるものがあるため、導入が容易であり、普及展開性が高い。</p>

3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	ステークホルダーとの連携
	<p>今後策定する計画にはSDGsを位置づけ、その達成の実現に向けて、まちを挙げて取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第5次三郷市総合計画</li> <li>三郷市まち・ひと・しごと創生総合戦略</li> <li>日本一の読書のまち三郷推進計画</li> <li>三郷市環境基本計画</li> <li>その他の個別計画</li> </ol>	<p>第5次三郷市総合計画において、SDGsを位置付けることにより、その実施状況や進捗状況の把握を行い、円滑なSDGs推進に取り組むとともに、検証を兼ねて見直し等を行いながら、確実な推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本を通じて意識が変わるまち推進本部</li> <li>総合計画等懇話会</li> <li>本を通じて意識が変わるまちプロジェクトチーム</li> </ul>	<p>【域内外の主体】 (一財)出版文化産業振興財団、三郷市商工会、日本大学文理学部、跡見学園女子大学など 【国内の自治体】 埼玉県東南部5市1町連絡調整会議、友好都市 【海外の主体】 ギリシャ共和国のペリステリ市</p>
自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等		<p>自律的好循環の形成に向けた制度構築としては、本や読書によって意識を変える取組みへの姿勢が重要なポイントである。ステークホルダーとの連携により、進めた取組みから生まれた交流を確実に「見える化」し、意欲ある新たな交流や関係性につなげて、発展させていくことで、新たなイノベーションを創造していくことができる。このとき、国際的感覚や地域の活性化などをポイントにしたSDGsの視点が自律的好循環の土台となり、その創造からまた新たな交流を創出し循環を形成する。</p>	

2020年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名:本でつなぐみんなの意識が変わるまちみさとプロジェクト | 提案者名:埼玉県三郷市

取組内容の概要:本×交流、本×産業振興、本×健康など、本を組み合わせた立体的な取組みを展開していくことで、意識変革や行動変容を起こし、次の取組みのステージへ、新たな交流や関係性につなげて、新たなイノベーションを創造していく。

